

堀場製作所 (コード 6856 東証・大証 1 部)

業績推移(連結)

(予想数値は会社発表分。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
08.12	134,247	- 7.0	10,040	- 37.0	142.8	44.0	30.8	7.5
09.12	104,538	- 22.1	5,274	- 47.5	74.8	13.0	17.4	5.0
10.12(予)	113,000	+ 8.1	5,500	+ 4.3	75.7	15.0	19.8	4.9

4つのセグメントで事業展開する世界的分析機器メーカー

特色...自動車計測システム機器、分析システム機器、医用システム機器、半導体システム機器の4つのセグメントで事業展開している世界的な分析機器メーカー。

09年12月期は大幅減収減益に

急激な需要減と円高響く..09年12月期は、第3四半期(09年7~9月)末から回復基調に入ったものの、自動車・分析・半導体の分野での需要急減や円高による影響が大きく、売上高は08年12月期比22.1%減となった。事業の種類別セグメントの売上は、自動車計測システム機器:371億9,200万円(08年12月期比31.4%減)、分析システム機器:325億2,500万円(同15.6%減)、医用システム機器:223億3,700万円(同9.6%減)、半導体システム機器:124億8,300万円(同25.5%減)。自動車計測システム機器部門では排ガス計測事業が第2四半期(09年4~6月)以降に需要減となったほか、自動車計測機器事業(以下、DTS事業)も特に欧州向けの不振で赤字が拡大。分析システム機器部門では環境計測用分析機器が民間設備投資の削減などによって需要が急減。医用システム機器事業については、大幅な円高の影響から売上の約80%を占める海外向けが円換算額で目減り。半導体システム機器事業でも前半の世界的な半導体不況によるマスフローコントローラの販売が大幅に減少した。人件費抑制など経費削減を実施したものの急激な需要減退による売上減をカバーしきれず、営業利益(51億4,400万円)は同53.1%減、経常利益も同47.5%減となった。

今期は一転して増収増益の見通し

業績回復へ...2010年12月期については、医用分野の好調や分析・半導体の分野での需要回復などにより、売上高が09年12月期比8.1%増となりそう。事業別売上予想は、自動車計測システム機器:370億円(09年12月期比0.5%減)、分析システム機器:350億円(同7.6%増)、医用システム機器:240億円(同7.4%増)、半導体システム機器:170億円(同36.2%増)。このうち、分析システム機器では一般産業向けの分析・計測装置の需要拡大が、医用システム機器では血球計測装置や検査試薬の需要増が、また、半導体システム機器ではマスフローコントローラや薬液濃度モニタなど同社グループの主力製品の販売拡大がそれぞれ見込まれる。売上回復に伴う収益率の向上によって、営業利益(65億円)は同26.4%増の予想だが、会社側では為替差損など不確定な営業外費用の発生を想定しており、経常利益は同4.3%増にとどまる見通し。年間配当は09年12月期比2円増の15円を予定。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的な方法等を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。